○ Dr. Gilbert James : Associate Professor, Church in Society Asleevy Seminary
年 月 日：1967年6月6日
用　　務：日本の大都市，とくに東京都における人口交流とこれに伴う社会学的研究
連絡機関：東京大学社会学教室

○ Mr. Boguslaw Welpa : Social Affairs Officer, United Nations, Population Division, New York
年 月 日：1967年6月12日
用　　務：本研究所の研究活動について

○ Mr. E. H. Choe(崔仁鉉氏) : Statistician, Bureau of Statistics, Economic Planning Board, Korea
年 月 日：1967年6月15日
用　　務：本研究所の研究状況，とくに出産力調査について
連絡機関：韓国経済企画院統計局

○ Prof. Robert A. Hackenberg : Department of Anthropology, University of Colorado, U. S. A.
Dr. Beverly H. Hackenberg (Mrs.)
年 月 日：1967年6月26日
用　　務：日本における農村の近代化と社会構造の変動との関係に関する研究

第19回日本人口学会大会

第19回日本人口学会総会ならびに研究発表会は，昭和42年5月13・14の両日，東京・東洋大学（白山校舎1号館）において開催された．研究発表会およびシンポジウムにおいて行なわれた報告題目および報告者を掲げると次のごとくである．

第1日（5月13日）

○研究発表

1　第3次産業の雇用と経済成長
　——北海道の実例について——……小苅米清弘（函　館　大　学）
2　女子就業率の決定要因について……大淵　寛（中　央　大　学）
3　人口と経済成長……高木　尚文（成　城　大　学）
4　都市人口分布の「成長的順位法則」
　——日本の都市人口分布に適用した logistic 曲線——……舘　稔（人口問題研究所）
　三澤緋佐子（　〃　）
5　最近の人口変動にもとづくメガロポリス形成に関する研究……上田　正夫（人口問題研究所）

○特別報告

ジュースミルヒ歿後200年記念にあたって……森田　優三（青山学院大学）

○研究発表

6　労働力人口の産業間移動について……黒田　俊夫（人口問題研究所）
　内野　澄子（　〃　）
7　労働力人口地域間流動の相関分析……米澤　治文（東　北　大　学）
8　中学校卒新規就業者の地域間移動の統計的解析……鈴木　啓祐（流通経済大学）
9　「結婚と出産の経済的・社会的条件調査」の概要について……岡崎　陽一（人口問題研究所）
10　Post-Partum Amenorrhea の人口学的社会的意義……舘　稔（人口問題研究所）
　中野　英子（　〃　）
11　家族計画の出生抑制効果について……青木　尚雄（人口問題研究所）
12　低開発地域における人口動態率の推定について
　——インドネシアの場合——……高橋　晟子（人口問題研究所）

第2日（5月14日）

○研究発表

13　北京市の生命統計……木村　正文（国立公衆衛生院）

14　標準化死亡率と普通死亡率の関係について……角田　厲作（東京織物卸商年金基金）

15　年齢別死亡率についての若干の考察

　　附加　第8回国際傷病死因分類について……渡辺　定（寿命学研究会）

16　再帰数列による安定人口の解析……矢野　邦夫（久留米大学）

17　長寿率と安定人口との関係……安倍　弘毅（久留米大学）

18　日本のモデル生命表――国連方式による検討――……安川　正彬（慶応義塾大学）
　　広岡桂二郎（　〃　）

19　米国の州別生命表：1959～61（白人）……水島　治夫（九州大学）

○シンポジウム

家族の近代化と人口問題……座長…小山　隆（東洋大学）

(1)　ファミリーサイクルからみた家族の近代化……森岡　清美（東京教育大学）

(2)　消費者行動と家族の近代化……江見　康一（一橋大学）

(3)　農村家族の近代化……皆川　勇一（人口問題研究所）

第14回日本都市学会大会

昭和42年5月20・21の両日，広島県福山市市民会館において第14回日本都市学会大会が開催され，本研究所から，黒田俊夫（人口移動部移動科長），岡崎陽一（人口政策部主任研究官）および内野澄子（人口移動部移動科）の3技官が参加した．大会では，「都市学成立の理論と課題」および「地域開発の現状と課題」と題する二つのシンポジウムとほかに多数の自由発表が行なわれた．

「都市学成立の理論と課題」は，日本都市学会が昨年度来取り組んでいる問題であって，近年都市問題が重要性を加えつつあり，多方面から都市研究が進められつつあるとき，独自の研究対象と研究方法をもつ“都市学”という科学が成立するか否か，成立するとすればそれはどのような性格の科学となるべきかという根本問題を論究したものである．今回は経済学，地理学，社会学，行政学の立場から都市研究に従事している研究者によって意見が発表され，予定討論者およびフロアーから討論が出されたが，最終的結論に到達するには至らなかった．

他方，「地域開発の現状と課題」に関するシンポジウムでは，開催地に関係の深い瀬戸内開発に関する具体的な報告と問題提起がなされ，したがって議論もきわめて活発であり，工業を中心とする経済開発と社会開発との調和をめぐって鋭い意見の対立交換もみられ，はなはだ有意義なシンポジウムであった．

自由発表の論題は多角的であって，ここに要約することは困難であり，また各個にそれを紹介する余裕はないが，本研究所の黒田・岡崎・内野がさきに川崎市において実施した人口移動調査により，「大都市圏内大都市の人口移動の研究」と題する報告を行なった．ほかに人口に関する報告としては，小古間隆蔵氏「人口減少都市について」，森川洋氏「岡山県の人口移動」があった．　（岡崎陽一記）

人口移動と都市化の諸問題に関する専門家作業グループ国際会議

ECAFE は Bureau of Technical Assistance Operations (BTAO) の協力の下に，1967年5月24日から6月5日まで Bangkok において Expert Working Group on Problems of Internal Migration and